

SRID NEWSLETTER

No. 326 JANUARY 2003 国際開発研究者協会 創設者大来佐武郎
〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-17 千代田会館 5 階 FASID 内

1月号

新しい世の中を、力を合わせて開きましょう

海外運輸協力協会 観光開発研究所主任研究員 間島 徳治郎

白州 次郎のこと

ハーバード大学植物学教授 有原 元博

ジョン万とアダムス

国際協力事業団 青年海外協力隊事務所 辻岡政男

お知らせ

1. 幹事会 2月4日(火) FASIDにて 午後6時30分から
2. 冬季シンポジウム 2月22日(土) 一ツ橋大学大学院 学術総合センター

新しい世の中を、力を合わせて開きましょう

海外運輸協力協会 観光開発研究所主任研究員 間島 徳治郎

拝啓。皆様におかれては、お元気でお過ごしのことと思います。

さて、現在の日本の状況を眺めれば、不況とリストラの嵐が押し寄せております。しかし、もうそろそろ、日本の不況も良い方向へ向い始める萌芽も見え出しております。

世界の状況を見れば、依然として、世界の貧富の格差は激しく、富める者はますます豊かになり、貧しいものはますます貧しくなる状況が続いております。アメリカのテロに対する過激な反応によって、世界各国の国際テロリズムに対する戦いが進んでおります。果して、アメリカの対テロ作戦は、完全勝利を挙げられるのでしょうか？

私事で恐縮ですが、私は、2002年の4月から、新たに、社団法人 海外運輸協力協会(JTCA)の観光開発研究所の主任研究員となり、新しい運輸全般の業務がスタートしました。

今までは、観光分野のみが私の担当分野でしたが、今後は、あらゆる運輸交通分野が担当となりました。担当の分野が、大きく広がったわけです。早速、ある金融機関より、航空セクターの調査の仕事の委託を受け、今年の後半は、その航空セクターの仕事に集中し、没頭しました。特に、アジアの航空需要の伸びは著しく、今後10年間に互って、世界平均の5%を大きく上回る7%を越える伸び率で増大すると予想されていることが、印象に残りました。今後40年間にわたり、これまでの20年間の成長率がアジアで継続すると仮定した場合、アジアのGDP総額は、世界のGDP総額の5割を越えるだろうとの予測も出ています。その頃には、アジアは、世界の近代科学技術文明の中心地と呼ばれているかも知れません。われら日本人も、その中で大いに日本人の特徴を生かして活躍したいと思っております。

さて、JTCAの仕事が4月に新しいスタートを切った頃、私は、ある朝、勃然と新しい日本

国憲法の案を作りたくになりました。今年の4月から、私の娘の明日香が、九段下にある白百合学園小学校に通うことになって、新しい気持ちになり、娘が将来に活躍する舞台である日本の国をもう少し良い状態にしてあげたいという気持ちが、その発想を生んだのでしょうか。私がこの世から居なくなっても、この憲法さえあれば、日本という国が、明るい未来を夢見られるような国となっているならば、安心だと考えたのです。

約3ヵ月間にわたり、毎朝、業務が始まる前の2時間を活用して、新日本国憲法案の作成に没頭しました。まず、「まえがき」に、新憲法を創る動機として、「日本と日本人が、最近すっかり元気をなくし、特に経済活動が低迷しているが、その潜在的な底力は相当に大きなものがあるのだから、この辺で、新しい日本国憲法を、国民のうちの有志多数の協力で創出し、その新しい憲法という国の基本方針に添って、日本人すべてが、気分一進、心機一転して、新しい生活と活動を開始する必要があるのではないか」と述べました。また、この新憲法案は、現行憲法の改正という方向で、修正し、新規条項の追加を行ったものです。そして、アメリカ憲法、スイス憲法、デンマーク憲法、ドイツ憲法、オーストラリア憲法、イギリス憲法、ワイマール憲法、カナダ憲法、イタリア憲法、フランス憲法等を参考までに通読し、多くの示唆を得ました。更に、五十嵐敬喜氏著による「市民の憲法」からも多くのヒントを得て、この新憲法案に取り入れました。

そして、7~9月にかけて、多くの先輩、知人、友人にEメールで、この新憲法案を送付し、幾つかの貴重なアドバイスを頂きました。SRIDのメンバーの一部の方々にも送付しましたが、全員には、まだ送付していませんので、開発援助問題の高い知見を持っておられるSRIDメンバーの方々からも、特にそういった観点からのコメントを頂ければ、ありがたいと思いますので、新憲法案の原稿の入手を希望される方は、**電話（03-3501-1415）**か**Eメール（majima@jtca.or.jp）**でその旨をご連絡下さい。

なお、この新憲法案の主な修正点と新規条項は、以下のとおりです。

1. 前文を、現憲法の良さを生かしつつ全面的に改正し、その中に、日本の今後の国家目標として、「1. 日本と日本人は、「和を以って尊しとなす」の精神に基き、世界の恒久平和と世界中の人々の豊かな暮らしと個性ある文化の実現に貢献する。」等12のテーマを掲げる。
2. 天皇の国事行為に「内閣に対し重要な内外の国政に関する意見を陳述する」を加える。
3. 現行憲法9条を改正し、国際紛争を解決する手段としては武力の行使は永久にこれを放棄するとの理想はあくまで堅持するが、国連軍又は世界政府軍による国家防衛が実現するまでは、陸海空軍の保持を認め、明白なる自衛戦争における自衛権と交戦権を認める。
4. 第3章では、国民の権利のみ強調することを改め、義務と権利をバランスさせる。
5. 第17条に、「環境権と国の実現義務」を追加し、国内外の環境の保全、持続を図る。また、国際協力によって、積極的に国境を越える地球環境問題の解決に貢献する。
6. 第21条に、「国民投票権及び住民投票権とその義務」を追加し、国政の重要問題における国民の直接民主主義的な手法による国民主権の行使とそれによる最終決定を強調する。
7. 第33条に、「美しい町を創る権利」を追加し、あまりに強い私有財産権の主張の弊害を除去し、国民が歴史、伝統、文化に合った「美しい町」を創る権利を認める。
8. 第39条「拷問及び残虐な刑罰の禁止」で、死刑の廃止と、最高刑を「国民の生活向上に役立たせる終身強制労働刑（終身懲役刑）」とすることを明記する。
9. 第44条に、「外国人の義務及び権利」を追加し、今まで、冷たくあしらわれていた外国人の基本的な人権及び自由と権利・義務を認め、国際的な国家としての基礎を作る。
10. 第63条「法律案の議決」に1項「法律案は、内閣、国会議員及び少なくとも十万人以上

の投票権者の同意署名があれば一般の日本国民が、これを衆議院と参議院に提出することができる」を追加する。

11. 第5章（内閣）の第69条に、「中央政府と地方自治体の対等性」を追加し、国全体に係る行政を行う中央政府と地方の行政をすべて行う地方自治体政府の対等性を強調する。
12. 第72条「内閣総理大臣の指名」の中に、基本的には、従来どおり議会の指名によって国会議員の中から選ばれるが、20年に1回のみ割合で、日本国民有権者の直接選挙即ち公選で内閣総理大臣を選挙する制度を新設する。
13. 第6章（司法）に第81条「憲法裁判所の設置」を追加し、重要問題について、関係者の意見が対立したときに、新設する憲法裁判所でその是非を裁判する制度を新設する。
14. 第8章（地方自治）に第98条「道州制の導入と自治体の合併促進」を追加し、この憲法施行とともに、日本は都道府県制から道州制に移行することとする。
15. 第99条「地方自治の基本原則」を追加し、地方自治体は、中央政府が行うべき国全体に係る役割以外の地方の住民の生活に係る全ての事項を行う権限を持つことを宣言する。

そして、この新日本国憲法案（私案）の骨子は、以下のとおりです。

（前文）

- 「1. 日本国民は、世界中の諸民族とともに、この宇宙の宝石のような水と緑にあふれた多様性豊かな地球上に生命をいただき、共に二十一世紀を迎えられたことを喜び合いここに、天地宇宙の創造神に対して、心からの感謝を捧げる。
2. 日本国民は、我等と我等の子孫のために、諸国民との協和による成果を確保し、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し、日本国が、世界の恒久平和と世界中の人々の豊かな暮らしと個性ある文化の実現のために貢献することを国家の主たる目標に掲げるところの、主権が国民に存する国家であることを、誠実に世界に向かって宣言し、この憲法を確定する。元来、国政は、国民の厳粛なる信託によるものであって、その権威は国民に由来し、その立法権、行政権及び司法権は国民の代表者がこれを行行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは、人類普遍の原理の一つであり、この新日本国憲法は、旧日本国憲法のかかる原理を継ずるものである。
3. 日本国民は、旧日本国憲法の前文第2項にある「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高なる理想を深く自覚するものであり、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、我等の安全と生存を保持しようとして決意した。我等は、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようとして努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思う。我等は、全世界の国民が、等しく恐怖と貧困から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認し、その実現のために、全力を尽くして貢献することを誓う」という精神は、人類の等しく求めるべき大きな理想としてあくまでも堅持し、日本国民は、これを継承する。しかし、厳しい国際情勢を考慮し、日本国民が自らの国を自ら守るための自衛権は、国連軍又は世界政府軍による日本の国防が実現するまでは、これを確保することとする。
4. 日本国民は、日本国家の基本目標として、次のような十二ヶ条掲げる。
 - (1) 日本と日本人は、「和を以て尊しとなす」の精神に基づき、世界の恒久平和と世界中の人々の豊かな暮らしと個性ある文化の実現のために貢献する。
日本と日本人は、地球の環境保全に貢献し、地球環境の調和的持続の達成に貢献し、世界各国の水と食料の自立体制、持続的農業の実現に貢献する。
 - (3) 日本と日本人は、特に開発途上国の経済・社会の発展、その生活水準の向上を助け、先進国の過剰消費を抑制し、国内外の貧富格差の是正に貢献する。

- (4) 日本と日本人は、上記の目標を達成する基盤として、まず日本の産業を充実・高度化し、国富の増大と日本文化の向上を図り、日本を含む世界人類の生活を豊にし、文化を向上するための資金、技術、人材を蓄積し保全する。
 - (5) 日本と日本人は、「科学技術立国」を実現すべく、諸々の科学技術の進歩向上に努力し、その成果を日本を含む世界中の人々の福祉の向上に役立てる。そのため、世界中の教育水準の向上、特に各国の将来を担う子供達と女性の教育の進歩向上に貢献し、また、IT技術の国内外への普及に貢献する。
 - (6) 日本と日本人は、「観光立国」を実現するため、多数の外国人観光客の受入可能な物価水準等の体制を全力を挙げて整備し、観光・運輸・交通分野の国際協力も積極的に展開し、更に日本人の海外旅行も引き続き促進する。また、日本に在住する外国人の基本的な人権を認め、その受入れ体制を整備する。
 - (7) 日本と日本人は、国際連合の活動を積極的に支援し、その世界平和維持活動に積極的に参加し、究極的には世界政府（地球政府）の実現を目標とする。
 - (8) 日本と日本人は、地球の生命の尊さを認識し、すべての生命を限りなく尊重する世界の実現に向けて貢献する。そのため、生命倫理観を高め、世界の医療水準の向上を図り、日本人を含む世界中の人々及びすべての生命あるものの健康で文化的かつ良好な生活及び良好なる生存環境の実現をめざす。
 - (9) 日本と日本人は、男女の特色を生かした男女平等の世界の実現に貢献する。
 - (10) 日本と日本人は、主権が国民にある民主政体を擁護しつつ、各国の実情に応じて王制、共和制をも支持するなど、各国の歴史的文化的特色を尊重する。
 - (11) 日本と日本人は、日本を含む世界各国の民族、宗教、言語、文化、音楽、芸術・芸能、科学技術、教育、医療、文学、精神、歴史、伝承、建築様式等を最大限に尊重し、これらを大いに振興し、更に発展させるために貢献する。
 - (12) 総じて、日本と日本人は、世界の諸民族及び諸国家間に「世界の和」を実現することへの貢献をめざし、これを以って、国家の最高の目標とする。
5. この憲法は日本国内最高の規範であり、かつ世界の規範の一つになりうると自負するものであり、日本国と日本国民（日本国籍をもつ国民と日本に住む外国人）の二十一世紀以降の「あるべき姿」を示したものであり、日本国民は、国家の名誉にかけ、全力を挙げて、この崇高なる理想と目的を達成することを誓う。

以上が、私の新憲法案の骨子です。何か、ご意見のある方は、ぜひ、コメントをお寄せ下さるよう、よろしく、お願い致します。今後とも、SRIDの皆様と共に、力を合わせて新しい世の中を開いて行きたいと思っております。

白州 次郎のこと

ハーバード大学植物学教授 有原 元博

白州 次郎といっても SRID 会員の若い方はご存知ないかもしれないが、終戦直後、吉田茂元首相の側近として、マッカーサー司令官や GHQ の高官と渡りあい、日本の国益のために命をはって連合軍や、占領軍政策者となりあった交渉上手な人物として広く名を知られていた人物である。

私は大学卒業後、日本郵船に入社し、本社の国際輸送部に三ヶ月在籍しただけで、そのまま日本に一度も帰国することなく、シカゴ駐在員、ロンドン駐在員、ハンブルグ駐在員、ジェノバ(コロンブスが生まれたイタリアで最大の港町)首席駐在員を8年半つとめた。そのあとと思うところあって郵船を退職して、東大の森林植物で農学博士号を取得して、国連に入った経歴だが、各地各国でGHQによる戦後占領時代を知る人に、「君は白州次郎にそっくりだ」といわれるのである。

父の仕事の関係で、3才で藤沢に転居し、(農家に間借りし、風呂、お手洗いは独立していた) 鶴沼小学校に2年生まで在籍したが、父が米国航空宇宙局(NASA)勤務となり、高校3年生のときに帰国して、品川の青物横丁にある都立八潮高校に編入されるまで米国(テキサス州とハワイ州)ですごしている。帰国してまず困ったのは教科書、新聞や本が読めないことであった。東大名誉教授、実践女子大学教授(中国哲学、倫理学)であった祖父の趣味が書道であったので、大学卒業まで5年間、祖父による書道のお稽古で漢字をマスターしていった。「大、中、小」「一三四五六七八九十」「高、低」等から始めた。漢字が読めるようになって初めて読んだ小説は、漱石の「坊ちゃん」と藤村の「夜明け前」である。郵船に入ってから、外国人との交渉では一歩も引けをとった記憶がない。自分の信ずるところをずけずけ言い、交渉相手の話は聞くが、他人の忠告にはいっさい耳をかたむけなかった。他人の評価も気にならず、何といわれようとも自分の信ずるところを一直線に突き進んだ8年半であった。そんなところから「白州次郎」のあだ名がついたのかも知れない。上司も私にはまったくお手上げで、最後は何もいわなくなった。

私の趣味は、料理、古美術収集、日本画、俳句。スポーツは登山とヨットだが、登山のほうは1975年ヒマラヤの8000メートル峰のダウラギリII峰に登頂している。ヨーロッパに駐在していた時は、休みを利用して、モンブラン、マッターホルン、アイガー、メンヒ、ユングフラウ、ベッターホルン、グランドジョラスにガイドとともに登頂している。大学4年生の時創設したヨット部は今年創立35周年を迎え、OBの数も400人を超えた。2度インカレで優勝している。その他詩集を3冊、句集を3冊刊行しており、現在第4句集「風」のゲラ刷りをチェックしているところである。

他人の評など気にかけず、自分の信念にもとずいて、十年努力すれば結果はおのずとあきらかである。白州次郎の晩年は、国際ビジネスマンとして電力会社顧問、銀行の相談役、商社のアドバイザーとしてやはり精力的に仕事に没頭していたという。白州の専門は中世史である。私もそれにあやかり、死ぬまで現役で働きたいと心から願っている次第である。

私は米語がきらいで、授業は英語で行っている。同僚の米国人の教授に「君の米語はなかなかのものだ。」と言われたことがあったが、即座に「あなたも英語(クイーンズイングリッシュ)をもっと勉強すれば上達しますよ。」と言い放った。

白州次郎は現代にも生き続けているのである。

ジョン万とアダムス

国際協力事業団 青年海外協力隊事務所 辻岡政男

イギリス人の友人に幕末の漂流民ジョン万次郎の話をした時、その友人は、「ジョン万次郎はウィリアム・アダムスに似ているね」と言った。ウィリアム・アダムス(以下アダムス)はイギリス・ケント州出身で、1600年オランダ船リーフデ号で豊後(大分県)に漂着、その後徳川家康に用いられて外交顧問等として活躍した。日本名、三浦按針として歴史に名を残した。

この機会に、ジョン万次郎(以下ジョン万)とアダムスの共通点と相違点などを考えてみた。

ジョン万とアダムスとの共通点は、共に船乗りとして、命がけの漂流をした後、たどり着いた異国で人生が大きく展開したことだろう。二人とも現在まで、異国で過ごした土地の人々に親しまれており、その地で二人にちなんだ祭りや行事が毎年行われている。相違点は、ジョン万は貧農の子供として生まれ、漂流前、寺子屋にも通えず教育を受けることが出来なかったこと。一方のアダムスは、日本との交易路の開拓をめざすオランダ東インド会社所属の船の航海長であり、造船技術、航海術を身に付けた知識階級であった。また、ジョン万は10年間のアメリカ経験の後、日本に帰国して日本社会で活躍をしたが、アダムスは漂流先である日本で生活しその生涯を終えた。

先日、アダムスが徳川家康の要請で西洋式の船を造ったといわれる伊豆の伊東に出かけた。東京から新幹線を用いると一時間半で伊東に着いた。今は温泉町として有名である。街の真中を松川が流れ、すぐ近くの海に注いでいる。伊東の町の周囲はぐるりと山に囲まれている。今は、マンションが山の中腹までたくさん建っているが、それでも山の木々はあちこちでこんもりとして緑に茂っている。この山の楠木が造船用に適したと言われる。

伊東駅から松川沿いに20分程歩くと河口に着く。目の前の海に初島が小ぢんまりと浮かんでいる。この河口の砂浜でアダムスが西洋式の船、80トンと120トンの2艘を造船した。河口にあるアダムスの記念碑のところに近所の人らが二人、日向ぼっこをしていたので話しかけた。その人らの話によると、今堤防ができた向こう岸は、昭和20年代末頃までは確かに砂浜で、そこに造船所があったうだ。主に小型の木造漁船を造っていたらしい。豊臣秀吉が朝鮮出兵の時、渡海用の船をここで造らせたと言われているので、伊東は長く日本の歴史の中で造船の適地として著名であったのだろう。

伊東の街は、アダムスにちなんで毎年8月に按針祭を行い、灯籠流しや花火大会で大いに賑わう。河口広場のアダムス記念碑の横にイギリスの詩人ブランデンの詩碑があり、伊東の印象が刻まれている。その中で、「英国ではシェイクスピアの在世中であった時代、300年前に日本に来た最初のイギリス人であるアダムスが、今も伊東の人々にパイロット(按針)と呼ばれて愛されていることを知り感動した」という趣旨を書いている。アダムスの行事は、伊東の他に彼が住んだ平戸、横須賀でも開かれている。

2年程前、ジョン万がアメリカ生活を送ったフェアヘイブンに旅行したことがある。町を歩いていて、ふと立ち寄った雑貨店で、私が日本人だと分ると、居合わせた土地の人が、「その通りにジョン万が住んでいた家、向こうの道に通った小学校」と、親切に教えてくれた。フェアヘイブンは、毎年10月、ジョン万祭を催す。今、フェアヘイブンとジョン万の故郷、土佐清水市は姉妹都市になっている。

ジョン万とアダムス、二人に共通することだが、偶然巡り合った未知の環境の中で人生を切り開いてゆきながら、その結果について、一人の外国人として、本人が予想もしなかったくらい大きな影響を異国の人々の心に残した。